

## 1. 研究目的

現在、日本では4〜8人乗り自動車が主流である。しかし、国内のインフラの状況は幹線道路のほか、住宅増加などに伴い細い道の増加など地域特有の状況に変わりつつある。そうした状況を考えると、よりその地域や道路環境に適応した乗り物が必要なのではないかと考えた。

## 2. 調査と分析

特有の状況を見せる地域の一つとして、今回「新興住宅街」を取り上げ、山梨県上野原市にある新興住宅街「コモアしおつ」に行き調査した。

調査の結果、ここの特徴と問題点として、住宅が密集しているため交差点での死角が多い、住宅の間など細い道が多く大きな自動車では不向きである、信号がないため、子供の飛び出しの危険がある、などが挙げられた。

また、平日ではマーケットなどが宅地内にあるため買い物などでの主婦層の外出が多いことがわかった。

そこで、この住宅街での乗り物の主なユーザーと予想される主婦層にインタビューを行ったところ、自動車の主な用途にはマーケットへの買い物や子供の幼稚園などへの送迎、駅への急な雨の際などの送迎などがありその多くは近距離移動であった。ほかに、現在の自動車に関して駐車が不安や死角が多く取り回しの不安など視界に関する問題も挙げた。

以上の結果からポイントを絞った。

## 3. コンセプトの立案

「若い主婦の為のミニマムコンパクトカー」

- ・必要最低限の合理的なパッケージング
- ・視界性がよく取り回しの良いレイアウト
- ・新規開発の近未来型住居エリアに適したスタイリング

## 4. デザイン展開

はじめに、調査から挙げた新興住宅街の特徴からパッケージ、レイアウトを展開した。

具体的には近距離移動を活かし、乗員を大人1人と後部に収納可簡易席の1.5人に設定。簡易席は幼児、大人の送迎に使え、しまえば広大な荷室にも

なるというように考え、スペースを有効活用し、車体を小さくした。短距離での素早い乗降ができる様、座席は立ち気味にした。後部は背中合わせのタンデム乗りで展開。全幅を1200mmに抑え、視点は死角の多い道を考え大幅に高く設定した。

これを1/1図面で検証した結果、視点が高いと足元も高くなり乗降性が落ちる事が分かり、ステップ高を400mmに下げ、視界は大きな窓で確保した。また後部の乗降性も考え後ろは全高を高くした結果、幅が細く感じたのでリアタイヤを大きくし安心感に配慮した。

スタイリングは細い配置を活かしたスリムに纏う安心感をイメージした案を2案展開、アンケートの結果、乗ってみたいという票が多かった案を最終デザインに繋げた。結果は概ね良かったが、下の空いた造形の不安感については改善の余地があったため、重心を下げた造形に改善した。

## 5. 完成図



## 6. 結論

主婦層の方々に見ていただいた結果、外観については未来的、ユニーク、乗ってみたいと概ねよい評価であった。後部座席と荷物との互換性は便利そう、という意見の中、幼児を後部座席に逆向きに乗せるのは追突などが不安で小、中学生くらいならば安心で便利という声があった。この結果から、コンパクト化には大凡成功したと言えるが、子供を後ろに乗せる事に関する意見が多かったのでユーザーの子供に対する視点をより掘り下げればより良くなると感じた。視界に関して外観から前が見やすそうという印象を持って貰えた。